

2007 Sep/Oct

バーディック方式の試合分析

マイルス・ウィリアムス (PTR 教育担当責任者)

コーチのみなさんから、試合の分析の良い方法はないかとの問い合わせがよくありますが、シンプルで、安価で、効果的な方法をご紹介します。コーチ・バーディックの方法では、基本的なチャートにほんの少しのマークを使うだけで、たくさんの情報を得られるのです。

コーチ・バーディックは PTR のマスタープロフェッショナルであり、カリフォルニア州のレッドランズ大学のコーチを 38 年間努め、NAIA 史上最多勝記録を残しました。試合内容の分析を始めるきっかけについて尋ねたところ、「70 年代の初め頃、コーチの言うことを信じようとする選手がいたのがきっかけだ。」という返事が返ってきました。その選手はシングルスは上手だったのですが、ダブルスはそれほどでもありませんでした。そこで何が原因なのかを納得させるために試合の分析を始めるようになったという訳です。

分析をしてみると、「コーチ」がずっと気づいていたとおりの結果が現れたのです。その選手はほとんどミスをしませんでした。そのことはすばらしいことのように思えますが、逆にそのことが問題となっていたのです。つまり、彼には決め手がなかったのです。このことは、より上のレベルでは、命取りになりかねないのです。ダブルスで勝つためには、何か武器を持っていなければなりません。

「コーチ」のチャートニング方法は非常にシンプルですが、選手とコーチの双方にとって非常に有益な情報が得られます。

用いるマークは以下の通りです。

- ・ ファーストサーブのフォールト
- x ウィナー
- エラー
- a アシスト (これはダブルスに用い、バスケットボールやサッカーのようにパートナーが得点するきっかけとなるプレーをしたときに用います。点数は 0.5 に数えます。ロブでボレーヤーの頭上を抜いて、相手をさげた場合も「a」の評価をします。また、強烈なりターンや沈めたリターンにより、パートナーが簡単に得点できた場合も同様です。)

28 ページに実際の記録例を掲載してあります。7-5, 2-6, 6-3 でスティープ・マット組が勝ちました。試合が終わって、「コーチ」はそれぞれのプレーヤーに関する評価をまとめました。

スティープのセカンドセットを見てみましょう。

- ・スティープは2番目にサーブをした。
- ・彼のサーブは、第2ゲームと第6ゲームでブレイクされた。
- ・ファーストサーブを2本ミスし、サービスエースを2本とった。
- ・リターンエラーがフォアで1本バックで2本あるが、バックのリターンでのウィナーが1本とアシストが1本ある。
- ・フォアハンドボレーのミスが1本とバックハンドボレーのミスが2本あり、バックハンドボレーで3本決めている。
- ・グラウンドストロークでは、フォア・バック共に1本のエラーがある。
- ・ロブのエラーが1本ある。
- ・オーバーヘッドにはエラーもウィナーもない。

次に、点数を算出してみましょう。(-)は-1点、(x)は+1点、(a)は+0.5点。この分析例では、「コーチ」はファーストサーブのミスを記録していますが、点数には反映させていません。この項目を、チャートイングと評価の対象とするかは任意です。例えば、ブレントは第1セットでファーストサーブをたくさんミスしました。このことは、セットを落とす要因になったといえるでしょう。しかし、第2セットには持ち直して、ファーストサーブはすべて入りました。そして、第2セットはブレントたちのペアが勝ったのです。

横に合計すると、それぞれのプレーヤーのセットの合計、そして試合全体の合計が出ます。その合計評価点を、「選手別合計表」に各ストローク別に記入します。ボレーとオーバーヘッドでは、2通りの評価点合計をしています。一つ目は+・-の合計で、2つ目は、ウィナーのみの合計です。このことで強調されるのは、ダブルスにおけるポジショニングと攻撃的プレーの重要性です。そして、それぞれのストロークごとに点数をまとめ、総合計を出します。また必要に応じて、プレーヤーの評価点を基にしたランキングを記入することもできます。

「コーチ」は、各選手の結果を基にした評価が重要であると信じています。ダブルスでは「安定した攻撃」が鍵になります。そこで、ボレーやオーバーヘッドが強調されます。選手によっては、攻撃的なボレーをする選手と、つなぐだけのボレーをする選手がいることに気がつくでしょう。相手の打球を上手く利用して仕掛けて行ってポイントをとるプレーヤーもいます。

チャートのもう一つの観点は、ファーストサーブのミスの数でしょう。ダブルスでほとんどの場合セカンドサーブからプレーにはいるということは、サーブをブレイクされるチャンスが大です。また、サービスリターンにも注目しましょう。このミスをできるだけ少なく抑えることが、チームとして成功する上で重要な要素です。勿論、ある特定のショットでのミスが多い

としたら十分に練習をする必要があるわけです。

ブレントとマットの二人の「弱い」選手を見てみましょう。二人ともサーブリターンで苦勞し、ボレーの評点はマイナスになっています。一番強いスティーブは、積極的なネットプレーをし、ボレーのウィナーをたくさん稼いでいます。彼らのような経験豊かなプレーヤーは、ネットでのプレーを心がけているので、グラウンドストロークに関する評点が殆どないことにも注目してください。このチャートを見るだけで、スティーブとリックのペアが総合力で勝っていることがわかるでしょう。

総合評価を見ることで、一般的にどのプレーヤーがチームの勝利に寄与しているかがわかります。こういったデータをたくさん取っていけば、長所と弱点をよりはっきりと浮き彫りにすることができるのです。また、ラウンドロビン方式を用いて試合のチャートニングをすれば、選手のダブルスの能力をつかむことができます。数ラウンドごとにパートナーを変えながら行うことも良いでしょう。

チャート表を掲載しましたので、コピーして「コーチ」のチャートニング方法を実践してみてください。その結果、選手に話した方がよいと思うことはためらわずに話すようにすべきです。「コーチ」はよく、試合中の重要なポイントや状況に関しては書き込みをしておき、後で選手に伝えることができるようにしています。

テニスプロの次号では、「コーチ」のシングルの試合分析例をご紹介します。

「コーチ」バーディックご質問のある方は、myles@ptrtennis.org に e メールでご連絡ください。2002年2月のPTR国際シンポジウムでは、「コーチのチャートニング」の紹介を行います。

【訳： 鈴木真一 *PTRナショナルスター / フド・イン楯テニススクール代表】